



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.net>

第 43 号・2015 年 10 月発行

北加日本語教師会 2015 年秋の例会

Saturday, November 7

Chabot College (Hayward)

総領事のご挨拶



本年 5 月、在サンフランシスコ総領事として着任しました山田淳（やまだ じゅん）です。北カリフォルニアで日本語教育、日本文化の促進に携わっておられる先生方の日々の御努力に心から感謝申し上げます。

私は、これまでの外務省勤務において、主に日・欧州関係や経済外交に携わってまいりました。海外勤務としては、在ロシア大使館、在米大使館、在タイ大使館、在ウラジオストク総領事館、欧州連合日本政府代表部（ブラッセル）での勤務を経験してきました。今回は約 10 年ぶりの米国勤務となりますが、米国の中でも歴史的に特に日本との関係が深いサンフランシスコで勤務できることを、大変嬉しく思っております。当地における日系人コミュニティや日系企業の大きな存在に強い印象を受けるとともに、先日の J-POP フェスティバルでも示された「日本熱」には驚くべきものがあり、カリフォルニアにとり日本が文化的、経済的にとても身近な国であることを肌で感じています。

日本語学習者についても同様であり、国際交流基金の 2012 年の調査によれば、米国における日本語学習者総数約 15 万 6 千人中、カリフォルニア州は国内最大の約 3 万 7 千人を誇っています。外国語の習得は、その国の文化や社会に対する理解を深める上で最も重要な手段であり、より多くの米国の方々に日本に関心を持ってもらい日本語に触れてもらうことにより、親日家や知日家の一層の増加につながっていくものと考えます。特に初等・中等・高等レベルにおける日本語教育は、将来の日米関係を担う若い世代の対日理解を深めていく上で、格別に重要な役割を果たしている

山田総領事のご挨拶



会長挨拶



確信しております。

その一方で、昨今カリフォルニア州においては外国語教育の予算削減の影響や他言語への関心の高まりを受け、日本語学習者が減少傾向にあるほか、関係者のご尽力にもかかわらず日本語プログラムが閉鎖に追いやられる等のケースが少なくないようです。当館としては、このような状況を一步一步改善し、当地における日本語教育をこれまで以上に盛り上げていくことができるよう、北加日本語教師会をはじめとする教育関係者の皆様と日頃から連絡を密にし、今後ともできる限りの協力を行ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

会長挨拶 高松信子

「北加日本語教師会会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過しの事と存じます。世界中で異常気象現象が続いておりますが、今日はNHKから長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が噴火したニュースが流れてまいりました。」これは昨年秋のニュースレターの書き出しです。今年九月に入り阿蘇山の噴火活動が続く、又茨城県沖で未だ地震活動も活発なようです。台風に伴う洪水の情報も次々と流れてまいりますが、異常気象は確実に昨年以上に人々の生活に影響を及ぼし、我々はこの大自然の中の生命の一部なのだと改めて感じさせられます。



また天災のみならず、欧州をめざす難民たちの生活も聞きしに勝る大参事となっております。国際移住機関 (IOM) によると、内戦が続くシリアからの難民達を含め今年に入ってからギリシャにたどり着いた難民・移民は 30 万 9 千人を超えたそうです。まずギリシャの島に上陸し、ドイツなど欧州各国を目指す旅となっているようです。

奇しくも Pope も九月二十二日にアメリカを訪問され、Junipero Serra Canonization Mass、移民の子供達が多い East Harlem の学校訪問、また 9/11 Ground Zero Memorial Museum での人種、宗教を超えた人々の共通理解、世界平和を願う集い等、日々多忙なスケジュールを熟していらっやいます。私はカソリック信徒ではありませんが、20 年間 Saint Ignatius 校で教えた経験によりこれらの礼拝の様様、Pope からの世界平和を願う言葉を感慨深く拝聴いたしております。歴史は繰り返すと言われ、過去にもこのような天災、人類の戦いの記録が残っておりますが、これ以上参事が起きないように願うばかりです。同時に人々の共通理解を図るための言語教育の大切さも痛感致しております。

さて前置きが長くなりましたが、北加日本語教師会、春の例会時には国際交流基金メキシコ日本文化センターの蟻末淳氏をお招きして「JF スタンダード理解促進研修」についてのワークショップを持ちました。海外からの講師をご招待しての例会となりましたが、皆様方のご協力によりお蔭さまで盛況のうちに終了することができました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。次回春の例会も同じ流れとして「スタンダード」に関連

NCJTA
2015
秋の例会



した教授方、教科書等を研究するような企画を考えておりますが、その節はまたご参加くださいますようお願い申し上げます。

それに先駆け、11月07日（土）には例年の Foreign Language Association of Northern California (FLANC) Conference and workshops が Hayward の Chabot College にて開催されます。日本語関係では三つの発表が予定されております。詳細は FLANC Conference Fall 2015 のお知らせ欄をご覧くださいければお分かりになりますが、

- 1) Eriko Matsuura 先生による
Nagoya Residents' Awareness of Nagoya Dialect and Dialectical Usage
- 2) 南先生、湯川先生による
New directions in Japanese linguistics: Promoting dialogue and exchange between linguists and language teachers
- 3) 英明大学の三上香楽先生による
Innovative but Revised Traditional Japanese Kokoro Education

と題する発表がございます。NCJTA 秋の例会では、FLANC の最後のセッションとして 3:00p.m. から 3:45p.m. まで開催予定ですが、今回は英明大学の三上香楽先生が、引き続き日本の仏教文化と言語教育に関する興味深い研究の発表をなさってくださいます。

ご存知のように北加日本語教師会は FLANC に加入しています。北加日本語教師会が組織の一機関として健全な発展をしていくためにも我々の FLANC 出席は大切です。非常にお得になっている添付の例会申し込み用紙をお書きになりグループ登録に是非ご参加くださいますようお願い致します。それでは当日皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

北加日本語教師会秋の例会
NCJTA Fall Conference

NCJTA Fall Conference

11月7日(土)@Chabot College (Hayward)

NCJTA 秋の例会では、2時からの FLANC の発表の時間から続ける形で、英明大学三上香楽先生の「Innovative but Revised Traditional Japanese Kokoro Education」と題するワークショップが開かれます。事務的なお知らせは FLANC の秋の例会の昼食時に行なう予定です。FLANC の例会では、午前中にも日本語関係の発表が予定されていますが、例会の後続いてが FLANC の発表の時間と NCJTA の時間を使って行われる予定です。すべて同じ会場で行われる予定です。奮ってご参加下さい。

ご参加いただくには、NCJTA のグループ登録が利用できます。参加費用は 30 ドルで、FLANC 及び NCJTA の例会参加費と朝食代、昼食代が含まれております。添付の申込用紙でお申し込み下さい。

➤ 日時：11月7日（土曜日） 2時—4時

NCJTA 会計から



- 場所：Chabot College (Heyward)
- 申し込み締め切り：10月15日（木曜日）
- 申し込み：添付の用紙をご使用ください。10月15日必着でお申し込み下さい。

NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2015 年度分の会費（2015 年 1 月から 12 月まで有効）を未納の方は本ニュースレターに添付の年会費納入用紙とともにご郵送くださるか、秋の例会でお支払いください。昨年までの会費が未納の方も、今年のみ会費で結構です。

秋の例会は例年通り、FLANC の一部として開催されます。事前にグループ登録していただきますと FLANC にも終日参加できます。通常の FLANC の登録料よりかなりお得になっておりますので、是非この機会をお見逃しのないよう、お誘い合わせの上、ご参加ください。添付のグループ登録申し込み書をご記入の上、チェックを添えて、下記までお送りください。なお、締め切りは厳守していただけますよう宜しくお願いいたします。締め切り日までに届かなかった場合は当日個人で登録していただくことになりますので、ご了承ください。

事前登録料： 30 ドル（朝食、昼食、ワークショップ込み）
チェック支払先： NCJTA
チェック送付先： Seiko Kosaka
Department of Foreign Languages
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA
94132

事前登録締め切り： 10月15日（木）（必着）
*二、三日前に投函されることをおすすめします。

（文責：高坂）

秋の役員会議事録



2015 年 秋の役員会議事録

日時：2015 年 8 月 30 日（日曜日）午後 11 時～1 時

場所：サンフランシスコ州立大学

出席者 14 名（以下出席者、報告者の敬称略、順不同）：

高松、須田、高坂、南、清水、伊藤、森岡、森川、田中、宇田、神原、三上、猪俣、玉川（領事館）

1. 領事館よりお知らせ

- 新しく着任された調査員、玉川麻衣子さんからのご挨拶
- 第 46 回弁論大会が 11 月 1 日（日）に開催。北加日本語教師会から 100 ドルを寄付
- 年賀状コンテスト 11 月 27 日（金）締め切り
- JET プログラム公募が 10 月上旬から始まる予定
- 領事館職員による学校訪問プログラムに興味がある教師は、領事

2015 年 NCJTA 春の例会報告



- 館まで連絡
2. 役員交代と新役員の紹介
 - 三上先生（英明大学）がウェブデザインを担当
 3. 秋の例会： FLANC と 11 月 7 日（土）に合同開催
 - 10 時から 日本語のプレゼンテーションが始まる予定
 - 2 時から 4 時まで、三上先生によるワークショップ
 4. お茶三昧：2016 年 5 月 1 日に開催
 - 北加日本語教師会から 100 ドルを寄付
 5. 春の例会
ICPL と共催してはどうかという案が出された。今後役員間で話し合う必要がある。
その他、ニューズレターの記事分担についての話し合いや、CAJLT 役員交代についての報告等があった。

（文責：猪俣）

春の例会 「JF スタンダード理解促進研修会」について

今年度の春の例会は国際交流基金の協賛を得て、3 月 22 日（日）に UC Berkeley にて開催された。講師に蟻末淳先生を迎え、以下の流れで進行された。

1. JF 日本語教育スタンダードとは何か。
 - Common European Framework of Reference for Language (CEFR)を参考に、2005 年より開発された。
 - JF スタンダードには① 6 つの熟達度レベル（A1～C2）、② 熟達度をあらわす「Can-do」、③ ポートフォリオの三つの軸がある。
 - JF スタンダードとは日本語の教え方、学び方、そして学習成果の評価の方法を考えるためのツールである。日本語教育のフレームワークを強制するものではないので、個々の教師が必要時に、使いやすい形で使えば良い。
2. Can-do について
 - 「スタンダードの木」https://jfstandard.jp/pdf/jfs2010_tree.pdf から言語活動のカテゴリー、レベル（A1～C2）を考える。
 - JF の Can-do には「結婚パーティー」等の具体的なトピックがある。ウェブサイトにて、トピック、レベル、カテゴリーから自分が教えているコースに使えるような Can-do の検索が可能。
<https://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>
3. JFS 準拠ロールプレイテストについて
 - ロールプレイでは、文型や語彙ではなく、どのような状況で何ができるかに重点をおいて評価される。
 - ロールプレイはロールカードを使って進行され、同レベルで二種類のロールプレイが達成できた場合に、そのレベルの能力があると判定される。
4. Can-do で授業を再築する
 - JF 準拠教材「まるごと」の紹介。
 - 既存教科書からの Can-do の作り方：① 文型をピックアップする。② どんな機能を持っているか考える。③ どんな状況で使うか考える。
 - まとめとして、グループに分かれて教科書の課を選び、JF スタン

ダードの観点から、授業を組み立ててみるというアクティビティをした。

会員からは、ロールプレー時のテストの主観性の問題、ACTFL との相違点、JF スタンドアードの曖昧な表現箇所の解釈について等、さまざまな疑問点の指摘や質問等がされ、活発な意見交換の場になった。45 名が参加し、ワークショップについてのアンケートでは、回答者の 100% が「とても有意義だった」、または「有意義だった」を選択した。以下に、アンケートから会員の方の感想を一部引用する。

参加者との話し合いが、多様なテーマにわたってとても有意義だった。日本語で母語文化を説明するというタスク、今後利用してみようと思った。まるごとプラスの紹介は、教材の「宝の山」だと思った。



(文責：猪俣、写真：清水)

『言葉の窓』



PBL in a Japanese language class

森川知計 (Tomokazu Morikawa)

みなさん、PBL という言葉を聞いた事がありますか。PBL は、Project Based Learning の略で、日本語では課題解決型学習とか問題発見解決型学習と訳される事が多いです。堅苦しそうな名前ですが、簡単に言えば、学生に問題や課題を提議し、それを小グループで、学生たちが自主的に話し合い、解決／発見のための提案をしあうというのが、大まかな流れです。本やクラスで学んだ知識を持っていたとしてもそれを総合的に応用するのはなかなか難しいタスクですが、それをこの PBL を使って実現しようという試みです。社会や理科のクラスでよく使われる学



習方法ではありますが、外国語のクラスではどうでしょうか。まずみなさんが思われるのは下記のようなことではないでしょうか。

- ウチの学生の日本語のレベルでは、日本語で話し合うのは無理。
- 学生の日本語レベルがばらばらで、グループで行うのは無理。
- 文法や単語、漢字を教えるのに精一杯で、時間的に無理。
- 日本語で、「社会的問題」を話し合うなんて、レベルが高すぎるから無理。
- 教師の私が指導方法を知らないので、無理。

いかがでしょうか。確かに学生たちに「使える」「できる」「楽しい」と思わせるのは大変なことですし、事前準備も必要になってはきます。でも教師として、学生のための学習習得の目標を考えた時、みなさんは、「漢字がいくつちゃんと書ける」とか「文法のあれこれが正しく使える」などをまず考えますか。それとも「こういう場面で話せる」とか「こういうことを聞いて理解できる」とか総合的な学習習得を目標にされますか。文法や漢字も大事な要素ではありますが、それは、習得目標の過程の一つであって、学生のための目標自体ではないと思います。

学習目的を総合的な日本語習得／日本文化理解とするならば、学生たちがそれに見合った学習経験をクラスの中で行えるためのカリキュラム作成、そのための学習環境を整える必要が出てくると思います。もちろん外国語で学生同士が話し合うのは難しいタスクです。でもそれを学生の外国語レベルが高くなるまで待つ方がいいのか、初級レベルでもできる事を取り入れながら、いつか学生が流暢に外国語で話し合えるようなスキル習得のための準備を初級レベルからでも行った方がいいのか、みなさんはどうお考えになりますか。

PBL だけが、総合的な日本語習得／日本文化理解に向いているわけではないですが、私の実例を使い、初級でも「真似」できる PBL プラン作りを紹介させていただきます。

まず、カリキュラムの前に、学習環境設定です。私のクラスでは、どのレベルでも、4 人が机をくっつけてグループになっています。一人一人が担当の役目を持っており、グループ内で、小さいクラスを作るという感じ です。「先生／TA／Dean／学生」と分かれ、だいた 2～3 週間に一回、席 替えをし、一年でたくさんの役割を担当できるように努めています。先生 役は、アクティビティの先頭役、TA は先生役のアシスト、Dean は、見張 り役 (for unfocused students)、学生はアクティビティに集中するのが役割で す。学生は役割ごとによく使われるフレーズを知っているので、それらを 使いながら、授業内での学生同士の会話を出来るだけ日本語で、できるよ うに指導しています。学生への質問なども役割ごとに行っており、例え ば、今日は「学生」担当の学生に質問を集中するとかです。それをアシス ト／サポート／モニターするのもグループメンバーの役割です。クラス内 で学生たちが日本語を使って会話進行するには、先生が日本語だけで話し たり、「No English」のサインを使うだけでなく、学生が「安心」して話 せる環境が必要になってくると思います。

次にカリキュラムです。カリキュラムはレベルによってももちろん違いますが、今回は高校日本語 2 年目の秋学期に行うトピックの一つを紹介します。

(タイトル／概要) My Town / San FranOsaka

How do we make our community more comfortable and accessible for all? What do we need for building a better community for all age groups? Students will discover cultural and social elements about city development through understanding similarities and differences between San Francisco and Osaka (described as both popular tourist destinations and urban cities for residents).

Essential Questions

- Why is Osaka a sister city of San Francisco?
- How do many people in Japan get around town?
- What makes a town comfortable for all residents?
- How can we make our city more enjoyable and unique for all?

Essential Questions が、このユニットの問題提議になるわけですが、これらの質問に対する「答え発見」を学生がクラスのアクティビティを通して行っていきます。アクティビティには写真やグラフ、小さい記事などを用意し、グループ内で話し合いがしやすい環境を作っていきます。自分たちの街（サンフランシスコ）と、日本の街によくあるもの、行政サービス、大阪の観光名所、交通機関、外国人観光客へのサービスを比べ、どういう街造りが住んでいる人々や観光客にとって良いかを提議していきます。サーベイ調査も行い、どんなニーズやリクエストがあるのか、自分たちで調べ、その結果などを取り入れ、簡単でも自分たちのレベルで討議経験をさせ、自分たちのアイデア／調査結果が反映されたプロジェクトを作成していきます。

最終的にサンフランシスコと大阪の良し悪しを自分たちのレベルで探し出し、「San FranOsaka」という新しい街紹介を、その街の知事候補とその応援グループとして、発表を行います。総領事館の方や大阪／サンフランシスコでビジネスをされている方々をクラスに招待し、発表／知事投票を行います。学生自身は、個人の Digital Portfolio に自分のプロジェクト／街提案を行い、日本の姉妹校の学生たちに見てもらいます。実際に自分たちの発見プロジェクトを見てもらえる／聞いてもらえる観客がいることも PBL の大事な要素の一つです。私のクラスでは、Google Blogger を digital portfolio に利用しています。

じゃ文法紹介／練習、単語／漢字練習はどうなるのかと疑問に思う方もいらっしゃると思いますが、文法紹介は、Learning videos を作り、Flipped Learning として、学生にクラス外で勉強してもらい、ビデオで習った文法項目／単語などの練習をプロジェクトと絡めて行います。教科書はクラス内では使わないので、学生たちは私が作ったビデオやオンライン教材などを利用して、日本語習得のための勉強をし、クラス内では実際に使うことに集中します。

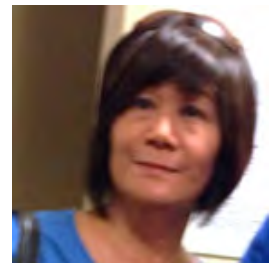
ここまで書くと、「何と素晴らしい！」と思ったださる先生方もいらっしゃると思いますが、実際は大変で、汗、汗、汗、失敗の日々です。私自身、このようなカタチで、クラス運営を全般に行うのは今学年が初めてで(小さいプロジェクトは色々してましたが)、しかも一クラスに35人もいるとなにかと Class Management に時間がかかることもあります。しかし去年と比べ、違うと思えることは、日本語を話すことに抵抗がある学生が少

なくなったことでしょうか。自信がついたというレベルではありませんが、不安が少し減ったようです。学生たちがいろんな問題／文化提議を通して実際に考え、その自分の考えを表現するために、日本語が「使える」ようになり、そして「できる」という自信が芽生え、習うことが「楽しい」と思ってくれることが、私の目標です。教師をはじめて20数年になりますが、教師自身学ぶことは尽きないと感じる毎日です。私のPBL Lifeをブログで紹介しております。ぜひ応援してください。よろしくお願いいたします。

<http://studio310sf.blogspot.com/>

北加日本語教師会と私の三十五年間を振り返って グラント文子

今からちょうど三十五年ほど前に仏教会で日本語を教えていた私は今の「北加日本語教師会」の前身である「北加日本語教授会」と呼ばれていた教師会に初めて出席させていただきました。サンフランシスコ州立大学の教室で十人余りの先生方が輪になって、教師会というよりは本当に勉強会のように和気あいあいと先生方の日本語クラスでの問題点などをシェアして、効果的な教授法について討論していらっしやったのを記憶しています。



「教授会」ではあっても日本語を教えている教師はだれでもこの会に参加できたそうです。当時はまだ日本語ブームが巻き起こる前で、教授法としての日本語教育は発展の走りでもあり、ESLで開発された教授法をいかに日本語に取り入れて行くかという動きが主流を占めていました。会では出席者の殆どが大学の先生方でしたが、勉強会の内容は学術的な言語学や国語／口語文法の学習ではなく、主に「日本語」としての文法をどのように学生に教えていくかということがよく勉強会でのテーマになっていたように覚えています。渡米してからはまだ大学生に日本語を教える機会がなかった私には、言語を理屈無しに習得していく子ども達への教授法とは違って、逆に興味深く感じられました。日本で学習した一般的な日本語教授法とは違って、米国でのこの地域に合った日本語教授法の模索に深く興味を覚えました。それが、四、五年経ち日本語ブームが本格的に始まる1980年代後半を前に正式名が「北加日本語教師会」と変わり、故三島先生がその初代会長とされました。今考えると、これはK-12から日本語学園協会を含む北カリフォルニアでの画期的な日本語教育界での転換期だったと思います。

それと相まって当時はちょうどそれまでのオーディオリンガルやグラマートランスレーション中心の教授法ではなく「コミュニケーション中心の教授法」という教授法というよりアプローチとして語学教育を行うべきだと言う流れに変わり始めたところでした。そして、そのためには実際の現実的な状況のもとに学生が学習言語で機能できなければいけないと言う今の

“CAN DO”の基礎のような言語教育が謳歌され始めていました。日本語ブームがちょうど始まり、日本語のクラスや教師の数は大学、高校を始めどんどん増え始めていました。教師の我々は今日のようにオンラインで情報収集したりシェアしたりできるわけでもなく、現場の日本語教師は新しい

言語教育法を学ぶのに心底飢えていました。年に2回行われていた例会だけではとても満たされませんでした。そんな中で会長の三島先生はどんどん会員にワークショップや勉強会を設けてくださいました。中でも一番印象に残っているのはUCサンタクルーズで開催された「第六回外国語教師夏期講座」です。これは北加での初めての「日本語養成講座」で、確か一週間ほどあったと記憶しています。このような規模で現場で教職についている日本語教師がワークショップに参加できたのは初めてでした。参加者は現職の先生方三十人ぐらいではなかったでしょうか。年齢は関係ないとはいえ、20代から多分60代の方もいらっしゃったと思います。でも全員がとにかく語学教育法の過渡期に経験度や年齢差を超えて新しい事を習得してそれをクラスで実践に移したいと言う情熱溢れる素晴らしい姿勢で望み、夜遅くまで興奮して語り合ったりしたのが今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。今では少し考えられない事なのですが、当時はそれぐらいに北加の現場の教師の我々にとっては新鮮で、少し大袈裟に言わせていただければ「画期的」なでき事だったのではないかと思います。

これを機に例会は益々活発になり現場でその成果を試しては、例会で話し合うのも楽しみでした。教師の方々も教授法に対して新たに敏感に対応していらしたように思います。私もこの時期にサンフランシスコのシティーカレッジで初めての日本語科のフルタイムになり、このような流れに影響を受けて改たに意欲に燃えていました。会話クラスの教科書にそれまでの文法中心の教科書からちょうど出版されて間もなかった「Japanese for Busy People」を大学レベルでは多分初めて採用する事にしました。当時はこの本はまだ大学レベルでは使うべきレベルの教科書とは見なされず、大学の先生方から結構なご批判をいただいてしまったのも良き思い出です。

1992年に三島先生の跡を継いで初めて会長を務めさせていただいき、初めて牧野先生を北加の日本語教師会例会にプレゼンターとしてお招きできたのも思い出の一つです。それまでは小、中、高、大学、学園校を通して日本語の現職教師をしていた我々は一部の先生方を除いてはあまり学会などで「外」に出ていくという機会がありませんでした。著名な方をお招きしての講演は会員にとっては何か新鮮で、且つ励みになりました。

こうして北加日本語教師会は十名近い会長のもとに役員、会員方々の熱心なサポートのもとに着々と成長を遂げました。それぞれ会長や役員になられた方々の持ち味を生かした例会や会の運営の仕方はその時代の流れを象徴していると思います。北加日本語教師会は2007年に正式に”Nonprofit organization／非営利団体”にもなり、創設四十周年を記念してサンフランシスコ日本国総領事館からも表彰していただきました。一時期は日本語の急激な大普及に高校部門や地域ごとの更なる組織化が図られ、組織そのものが縮小化された時期もありましたが、今ではまた逆戻りの傾向にあると思います。当初四十名ほどの会員で発足した教師会は今では常時百名を超えており、素晴らしいニュースレターも発行されています。以前とは異なって、情報収集が簡単に行われるようになった現在、日本語教育はそれぞれ教育団体の教育方針によってそれに叶った教授法を生み出す事が可能になりました。もう教師全員が一丸になって教授法を模索するという必要はなくなってきているのでしょうか。それだけに一層、個々の日本語教師が個々のクラスに、より効果のある教授法を見いだす事が求められる時代を迎えているようです。けれども日本語教育の発展にはポリティクスを無視する事はできません。一方での組織としての団結はこれからもっと大切

日本語教育関連 ニュース



になる事と思います。北加日本語教師会も他の機関への加盟が望まれる時期に来ています。

三十五年経った今、もうあの初めて参加した勉強会の先生方にお会いすることは殆ど不可能になってしまいました。現在の北加日本語教師会が今もこのようにまだ健在で増々成長の過程にあるのは、私の教師会との出会い以前からの教授会を含む、この四十年あまりの何百人という熱心な会員や役員の方々の献身的な努力と情熱の賜物だと信じています。ここ十年はテクノロジーの目が舞うような速さの発展で学習者自信も教授法も急速に変化しています。その対応に教師は以前とは異なった新たな課題に挑戦を余儀なくされています。もう十年若ければ、私も「いち」からやり直して「教授法」について改めて原点に戻って勉強し直してみたいと心から感じます。日本語教育で自分なりにできる貢献に自分の人生の意義を見い出して四十年近くが過ぎました。本当にあっという間でした。

このような諸々の想いを残し、私はこの六月に教職に終止符を打ってサンフランシスコのシティーカレッジを退職致しました。在職中には皆様には何かとご支援頂き、誠にありがとうございました。又一緒に掛けた掛けない思い出を自分の胸にしかと留めておく為にもこのような場を与えてくださったことに心からお礼申し上げます。今回、北加日本語教師会の発展に今日に至るまでご尽力くださっている先生方個人のお名前は敢えて控えさせていただきますが、諸先生方には感謝の念が耐えません。これからは北加日本語教師会の会員の一員として応援させていただくとともに、ここに改めて皆様の一層のご活躍と会の発展をお祈りする事をやみません。

安倍首相

「これからも日本語教育のために頑張ってください」



さる4月30日、サンフランシスコ市内のホテルで、訪米中の安倍晋三首相を迎え、邦人日系人による晩餐会が開かれた。晩餐会には、サンフランシスコジャイアンツの青木選手夫妻をはじめ、当地で活躍する日本人日系人が招かれた。

北カリフォルニア日本語教師会代表として出席した高松会長は、安倍首相から、「どうぞ、これからも、当地の日本語教育のために頑張ってください」と激励された。

写真は、サンフランシスコ市内フェアモントホテルで、高松会長、安倍首相、蔵重池坊インターナショナル会長

(文責：清水)

蟻末先生 UC バークレー訪問

春の例会の JF スタンダードワークショップのため、メキシコから来訪した蟻末先生が、ワークショップに先立ち、3月20日カリフォルニア大学バークレー校の日本語初級(近野先生)と言語学(長谷川先生)を見学しました。

初級クラスは春休み直前とあって、通常よりやや少ない12名の学生(大学院生と学部生)が、練習問題のピアプラクティスや、全員が前に出た板書での答え合わせなどに、和気あいあいと取り組んでいました。教科書は、バークレーで作成された『Elementary Japanese Vol. I, Vol. II, Yoko Hasegawa: Tuttle. 2』で、基本的に日本語だけを使って文法の導入などが行われています。

蟻末先生は、「昨年秋から日本語の勉強をはじめたばかりだという学生とは思えない授業レベルです。ピアで問題練習を良く話しているのに感心。それにしても、口頭でのやり取りのレベルが高く、漢字の読み書きも良くできるので驚きました」と語りました。

学生の一人は、先生にインタビューをして、その結果を発表しました。

「蟻末さんは、メキシコに住んでいます」

と発表する学生に、近野先生がすかさず「蟻末先生は、メキシコ人」
とさりげなく気づかせるように相づちを打ったのが印象的でした。

学生の多くが日本のポップカルチャーへの興味が強く、よく独学をするということです。

蟻末先生は、今回の視察を準備した北カリフォルニア日本語教師会の会長と各役員に感謝の言葉を述べました。

「効果的な指導方法と、学生の語学習得能力が高いことが窺われました。今回の授業見学はアメリカの大学の日本語教育を見る大変いい機会になりました。関係者の皆様、ありがとうございました。」

(文責 清水)

お知らせ

総領事館インフォメーションセンターから

第42回日本語弁論大会の開催

北加日米会及び当館は、第42回日本語弁論大会を以下の通り開催します。本大会に関する詳細については、総領事館のホームページをご覧ください
(http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jp/m07_02_06.htm)。

■日時：2015年11月1日(日) 午前10時：中高校生の部、
午後1時半：大学・成人の部

■会場：New People Cinema 1746 Post Street, San Francisco, CA 94115





年賀状コンテストの開催

当館主催により、小学生及び中学・高校生を対象とした「年賀状コンテスト」を開催します。応募いただいた年賀状の中から優秀なデザインを選び、優秀作品に対して総領事からの賞状を授与する他、2015年12月初旬から2016年1月末までの間、当館広報文化センター・ギャラリーにおいて、応募いただいたすべての年賀状を展示します。参加申し込みの締め切りは11月27日（金）となります。本コンテストに関する詳細は当館ホームページ (http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/archives/PR/2015/pr_15_0826.htm) にも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

2016年度 JET プログラムの募集開始

2016年度 JET プログラムへの応募が、10月からオンラインにて可能となります。応募に関する情報は、米国 JET プログラムのホームページ (<http://jetprogramusa.org/>) をご参照下さい。応募締切は11月13日（金）となります。また、在サンフランシスコ総領事館ホームページにも JET プログラムに関する当館の広報活動等の情報を掲載しておりますので、ご参照下さい (http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/e_top.htm)。

本件問合せ先：JET プログラム・コーディネーター Kai Wiesner-Hanks (jet@sr.mofa.go.jp)

学校訪問プログラムご案内

当館では、日本文化や日本について学ぶ初等・中等・高等教育機関の生徒・学生を対象に、日本への理解を更に深めてもらうことを目的として、当館職員による学校訪問プログラム(School Visit Program)を実施しています。先生方からの要望に応じて、日本文化等に関するプレゼンテーションを行います。ベイエリアの学校を中心に訪問致しますので、是非お気軽にお問い合わせ下さい。

本件問合せ先：教育担当 Steven Goldman (steven.goldman@sr.mofa.go.jp)

ワークショップ・イベントのお知らせ

- *Foreign Language Association of Northern California* (FLANC) Conference and Workshops
 - 日時：11月7日（土）8:30 AM - 4:00 PM
 - 場所：Chabot College (Hayward), Bldg. 700 (south entrance) for check-in

複数の発表が同時に開催されますが、ここでは日本人もしくは日本語での発表のみをご紹介します。

9:00 a.m. – 9:45 a.m. Teaching World Languages Through Music

Marion Gerlind, **Keiko Yukawa**, Rosa Camacho, América Salazar, and Jasmin Banic.

Focusing on students' musical talents, Teachers United for the Future (TUF) will be employing hands-on music to teach language in connection with a range of emotional expressions. We'll be introducing a variety of songs (bits) in German, Italian, Japanese, and Spanish, encouraging participants to express what they hear verbally and/or non-verbally in their world language. A multi-lingual handout with vocabulary will be provided for classroom use. In English (note that this presentation will be given in a different room). For all levels.

The following sessions are in Japanese, in the same room throughout:

10:00 a.m. – 10:45 a.m. Nagoya Residents' Awareness of Nagoya Dialect and Dialectical Usage

Presented by Eriko Matsuura, San Francisco State University

The research reports (1) how Nagoya dialect is evaluated by Nagoya residents, (2) how the evaluation of dialect influences dialect use, and (3) how the Nagoya dialect vocabulary, introduced in publication is used and recognized by Nagoya dialect speakers.

In Japanese. For all levels.

1:00 p.m. – 1:45 p.m. New Directions in Japanese Linguistics: Promoting Dialogue and Exchange between Linguists and Language Teachers

Presented by Keiko Yukawa, San Francisco State University and Chabot College, with Masahiko Minami, San Francisco State University.

This presentation describes how: (1) the Journal of Japanese Linguistics (JLJ) aims to stimulate research in Japanese linguistics and serve as a bridge between research oriented toward theory and research oriented toward practical application; (2) both researchers and teachers benefit from each other's expertise and exposure to new insights applicable to their respective fields. The journal covers a wide range of areas including second language acquisition, bilingualism, Japanese language education, and language production.

In Japanese. For post-secondary.

2:00 p.m. – 4:00 p.m. Workshop (in Japanese, in the same room). Innovative but Revised Traditional Japanese Kokoro Education

Presented by Koraku Mikami, Eimei University.

Kokoro Education Workshop: Revised traditions of the Japanese Mikkyo Buddhism as an applied Educational model for the implementation of innovative method and the achievement of Language learning through cultural practice. In Japanese. For all levels.

- NCJTA 会員の皆様は NCJTA のほうに前もって\$30 (朝食、昼食、ワークショップ代を含む) お支払いの上 (通常 FLANC メンバー\$50、ノン・メンバー\$65)、事前登録していただきますと、NCJTA 秋の例会ならびに FLANC に終日参加できます (FLANC のメンバーか否かは問いません)。本 Newsletter に申込書を添付しますので、ご記入の上\$30 を添えて会計の高坂先生までお送りください (10 月 15 日必着締め切り)。小切手の支払先名は「FLANC」ではなく、「NCJTA」です。なお間違いないようお願いいたします。
 - 登録料: \$30 (朝食、昼食、ワークショップ代を含む)
 - 小切手支払先名: NCJTA
 - 小切手の送付先: Seiko Kosaka, Department of Foreign Languages and Literatures (HUM 475), San Francisco State University, 1600 Holloway Avenue, San Francisco, CA 94132
 - NCJTA 秋の例会は、昼食時に行なう予定をしています。午後 2 時から、FLANC のワークショップとして真言密教の三上香樂先生のご講演がありますので、ご期待ください。
<http://www.daikokuji.us/>
 - 例会とワークショップは、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。



日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) の お知らせ

習得した日本語能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が、今年度もサンフランシスコ州立大学で12月6日(日)に実施されます。試験会場は、昨年同様、全米15会場です。サンフランシスコはロサンゼルスに次ぐ2番目の規模で、受験者定員が600名です。このように大規模になりますと、NCJTA会員の先生で労働許可をお持ちの方には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。

また、本年度も当会場にて特別措置を必要とする受験者が数名見込まれております。毎年多くの受験者に対応せねばならず、ご協力いただいている先生方にはたいへんお世話になっております。何卒、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

ご存知かと思いますが、日本語能力試験は、2010年から新試験形式を採用し、従来の4レベルから5レベル、N1 (Advanced)、N2・N3 (Intermediate)、N4・N5 (Beginner) となっています。これは従来の3級と2級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したものです。従来の2級をN2とN3に分割することで、2級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。

試験科目は、これまで同様「言語知識(文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の3セクションに大別できますが、最も難易度の高いN1と、その次に難易度の高いN2では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目として1セクション、つまり、全体で2セクションになるというような変更点もありますので、ご注意ください。ちなみに、受験願書の受付期間は8月24日から9月25日となりました。

(サンフランシスコ州立大学 南 雅彦)



Events at the BLC UC Berkeley Language Center

Panel with Mary Steiner, October 16, 2015

The Critical Importance of Less-Commonly-Taught Languages Mary Steiner,
United Nations Association of San Francisco Friday, October 16, 2015 3 – 5
pm B-4 Dwinelle Hall

Workshop by C. Kramersch & A. Whiteside, November 20, 2015

Symbolic Competence: Exploring ways of putting the concept into teaching
practice Claire Kramersch, UC Berkeley Anne Whiteside, CCSF Friday, Nov
20, 2015 3 – 5 pm B-4 Dwinelle Hall

北加日本語教師会より



Lectures by BLC Fellows (E. Hellmich, I. Kogel, L. Louie), December 4, 2015

Language Learning in and for a Global World: Assessing high school student's perceptions and uses of foreign language

Emily Hellmich, GSR, Graduate School of Education

Teaching Russian Cultural Competence and Listening Comprehension through Interviews

Irina Kogel, GSR, Slavic Languages and Literatures

Developing Best Practices for Translation in Literacy-Based Foreign Language Instruction at Berkeley

Linda Louie, GSR, French Department

役員改選のお知らせ

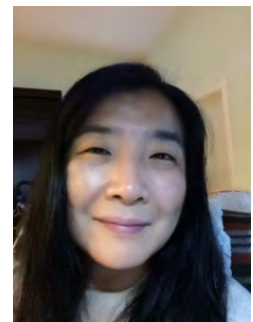
北加日本語教師会の副会長、小学校代表が 2015 年春で任期満了、会長、書記、高校代表、中学校代表が 2016 年春となっております。（副会長は立候補者がいらっしゃるまで南先生がなさっていただけるとの申し出がございました。）上記の役員に立候補ご希望、もしくはどなたかを推薦されたい方は添付の用紙にご記入の上、下記住所までご郵送ください。（10 月 31 日必着高松まで）

宛先： Nobuko Takamatsu
City College of San Francisco
50 Phelan Avenue, A108
San Francisco, CA 94112

先生の紹介欄

木内厚子先生

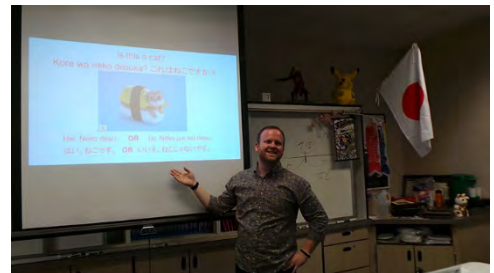
- お名前を教えてください。
Atsuko Kiuchi-Fagerness がフルネームです。アメリカ人と結婚したら、分かり易い名前になると思ったら、よけいやこしくなったので、木内でほとんどやっています。
- 教えている学校名、町を教えてください。
エルクグローブ高校、エルクグローブはサクラメントから 20 分程南にある町です。
- 日本語教師はいつから？
1999 年からです。今の高校は 2000 年からです。
- ご趣味は？
グルテンフリーベーキングとジム通いです。
- 日本の出身地は？
東京都渋谷区です。
- アメリカに来てから何年ですか。
1986 年に来ましたので、もう、29 年です。自覚ないんですが。年です。



- **仕事について、何か一言お願いします。**
日本で学生をしていた頃、英語のネイティブの先生方が母国語と文化を他国に来て広めている事を羨ましく思いました。今、それを自分自身がカリフォルニアで出来ている事とても嬉しく思います。Teachingは奥深くて、もう良い！という事がないので、いつまでも探究心と情熱をもって行けたらいいと思っています。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
8月から CAJLT のプレジデントに就任しました。皆さんのサポートとご指導を糧に日本語教育を盛り上げて行けたらと思います。何かありましたら cajltmembers@gmail.com まで是非ご一報ください。どうぞよろしくお願いします。

ニコラス・スターテバンド先生

- **お名前を教えてください。**
フルネームはニコラス・スターテバンドですが、生徒さんに「ニック先生」と呼んでもらっています。
- **教えている学校名、町を教えてください。**
サンノゼのシルバー・クリーク高校。
- **日本語教師はいつから？**
今年から！今まで翻訳をしていましたが、去年から日本語教育に興味を持ち、突然今年からインターンシップというかたちで教えることになりました。
- **ご趣味は？**
読書です。日本のミステリー小説が好きで、桐野夏生のファンです。
- **出身地は？**
ロスガトスで生まれ育ち、サンフランシスコ州立大学を卒業しました。
- **アメリカに来てから何年ですか。**
バイエリアの人ですが、2005 年から 2010 年まで日本に住んでいました。アメリカに戻って、日本で習ったことを多くの日本語学習者と共有できればと思っています。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
今でも日本語を習っている私ですが、一人でも多くの生徒さんに日本について関心を持っていただきたいと思います。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
全く新しい世界なので、わからないことがたくさんあります。会員の皆さんにご迷惑をかけるかもしれませんが、何卒よろしくお願いします。



学校からの
ニュース！

UC Berkeley
日本語講師
柴原千佳先生

私の学校でこんなことが……
(先着順)



4月24日、UC Berkeley Words in Action 2015 が行われました。
J pop Sing & Dance Team はラブソングのメドレーを披露しました。

University of the Pacific
日本語講師
ゼトリ佳子先生



University of the Pacific、MLL (Modern Language & Literature)の発表会で日本語クラスはフローズン (ありのままで) の主題歌を歌いました。

シルバー・クリーク高校
ニコラス・
スターテバント先生



日本語を使いながら茶道で使われる道具に関心を深める企画です。



休みの間、忘れた漢字を再発見するためのアート・プロジェクト。



部活動になりますが、アニメを見ながら日本語を楽しめるクラブがあります。（以上、四枚）

プレジディオ中学校
田中理恵先生



サンフランシスコのプレジディオ中学校にて安倍総理夫人からの「昭恵文庫」の寄贈式が行なわれました。在サンフランシスコ日本国渡邊総領事より50冊の本を受け取った生徒達は目をキラキラ輝かせながら、図鑑や漫画に目を通していました。

George Washington High School
森川智和先生



Scavenger Hunt in San Francisco with Osaka & Waseda University students

編集後記

今回は学校のニュースの写真もたくさんいただきました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。ご意見、ご示唆等、ございましたら、どうぞ下記までご連絡下さい。

神原： wkambara@berkeley.edu

清水： masakoshimizu@sbcglobal.net

北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Nobuko Takamatsu
City College of San Francisco
50 Phelan Avenue, A108
San Francisco, CA 94112
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

<役員>

会長： Nobuko Takamatsu 高松信子(同上)

(副会長： Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu)

書記： Kimiyoshi Inomata 猪俣公克
City College of San Francisco
E-mail: kinomata@ccsf.edu

会計： Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikogon@gmail.com

名簿： Kyoko Suda 須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

ニュースレター編集： Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan 清水オブライアン真佐子
E-mail: masakoshimizu@sbcglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

(ウェブ担当: Koraku Mikami 三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com)

<各レベル代表>

小学校代表： Takeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: taeko3568@aol.com

中学校代表： Rie Tanaka 田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表：Tomokazu Morikawa 森川知計
George Washington High School
E-mail: tomokazu28@gmail.com

学園代表：Yoko Uda 宇田陽子
Soko Gakuen
E-mail: yokouda_n@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表：Kimiyo Inomata 猪俣公克

大学代表：Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu



Northern California Japanese Teachers' Association



Northern California Japanese Teachers' Association

会費納入/新会員登録用紙

前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納入分はご請求いたしませんので、是非とも今年度分からお支払いいただけますよう、切にお願い申し上げます。2015 年度分の会費は 2015 年 1 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日まで有効となっております。

年会費 一般\$15、学生\$5 Check payable to: NCJTA

Mail to: Seiko Kosaka

Department of Foreign Languages, San Francisco State University
1600 Holloway, San Francisco, CA 94132

(新規・継続) どちらかにマルをつけてください。

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____

1) 受理確認メール (要・不要) 2) 領収書 (要・不要) どちらかに○をつけてください。

.....き.....り.....と.....り.....線.....

住所変更/氏名変更等届出用紙

下記のうち該当する変更事項を○で囲み、必要な情報を書き入れてください。

変更のない方は、提出の必要はありません。

Mail to: Seiko Kosaka

Department of Foreign Languages, San Francisco State University
1600 Holloway, San Francisco, CA 94132

1. 氏名の変更 旧氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

新氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

2. 住所変更/勤務先変更 (新しい情報だけご記入ください。)

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____

Northern California Japanese Teachers' Association

**GROUP REGISTRATION FORM
for FLANC CONFERENCE and WORKSHOPS**

Nov. 7, 2015 at Chabot College, Hayward.

See FLANC website for details, www.fla-nc.org

Please complete, make check payable to NCJTA and mail to:

Seiko Kosaka
Department of Foreign Languages
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue,
San Francisco, CA 94132

DEADLINE: OCTOBER 15, 2015

REGISTRATION FORM-PLEASE PRINT

Name: _____

Email address: _____

School Position: _____

School: _____

Registration includes breakfast, lunch, and the workshop (**PLEASE SELECT ONE**):

- 1) Online Student-Generated Communication with Google Doc Dialogues
(In English with examples in Spanish. For all levels.)
- 2) Embedding Culture and Common Core in Instruction
(In English with examples in French. For all levels.)
- 3) Technology Tips for the AP Spanish Classroom (In Spanish. For secondary level.)
- 4) Innovative but Revised Traditional Japanese *Kokoro* Education
(In Japanese. For all levels.)
- 5) DIY Online Lectures
(In English with examples in French and Spanish. For all levels.)

Conference GROUP fee-----\$30.00

Amount Paid: _____

Check # _____

Check in with your Affiliate Organization (NCJTA) representative on conference day at the registration table in order to receive your conference packet. Thank you.



北加日本語教師会

北加日本語教師会・役員立候補届用紙

現在、以下の役職が空席です。立候補されたい役職に○をつけてください。

	会長		副会長
	書記		小学校代表
	中学校代表		高校代表

役員に立候補ご希望、もしくはご推薦されたい方はこの用紙にご記入の上、下記の住所までご郵送下さい（**10月31日必着 高松まで**）。

宛先：Nobuko Takamatsu

City College of San Francisco, 50 Phelan Avenue A108, San Francisco, CA 94112

お名前（日本語） _____
(ふりがな) _____

お名前（英語） _____

Position Statement（なぜその役職に興味があるのか簡単・簡略に述べてください）

--

連絡先：

E-mail：

Tel：

勤務先：